

アフガンの現実

長谷部 貴俊

②

ここである事件を紹介し
ます。2008年7月6日、
アフガニスタン東部ナンガ
ルハル県内、パキスタンとの
国境を接する村でアメリカ軍
が「外国から来た反政府勢力」
に対しての理由で空爆を行
いました。しかし空爆を受け
たのは村の結婚式に行く途中
の女性や子どもを含む普通
の人々でした。27人が亡く
なり、あまりの激しい攻撃で
体が発見されない人も10人
いたそうです。亡くなった方
の中には日本国際ボランティア
センター(JVC)の診療所
医師のいとも含まれていま
した。

村の人々は嘆き悲しみ、米
軍やそれに対して何も対処し
ないアフガニスタン政府に反
感を持ち続けています。東部
の国際赤十字事務所が現場調

査を行い「米軍は反政府勢力
でなく民間人を殺害した」と
する報告書を提出しました。
それでもなお、米軍は「外国
人の反政府勢力を攻撃した」
と言い続けています。
不当な夜間捜索はいまだに

少年や、JVC支援の診療所
の10分前の民家の壁、小学
校にヘリコプターから銃弾が
撃ち込まれたことがあります。
た。

これらについては外国軍と
の定期ミーティングの際に、
私もアフガニスタン人スタッ
フも抗議しました。1回目は
演習だと言いました。2回目
は担当者が変わって「やって
いない」などと言うのです。
さすがにこの言葉を聞いた

従事する兵士の多くは思想的
な理由ではなく、公務員より
いい給料なのでお金のために
戦っているという状況です。
上から指示されたことをただ
やっているという人もかなり
いると聞いています。

一方で、ジャララバードで
私はいろいろな米兵に会って
きました。筋骨隆々でいかに
も職業軍人という人もいます
が、高校を出たばかりの華奢
な青年も多くいます。

最前線には常に「弱者」

民間人への不当攻撃続く

続いており、一般人が間違っ
て米軍に拘束をされ、ひどい
暴行を加えられた後、数週間
後に解放されたという話を
い最近も聞きました。

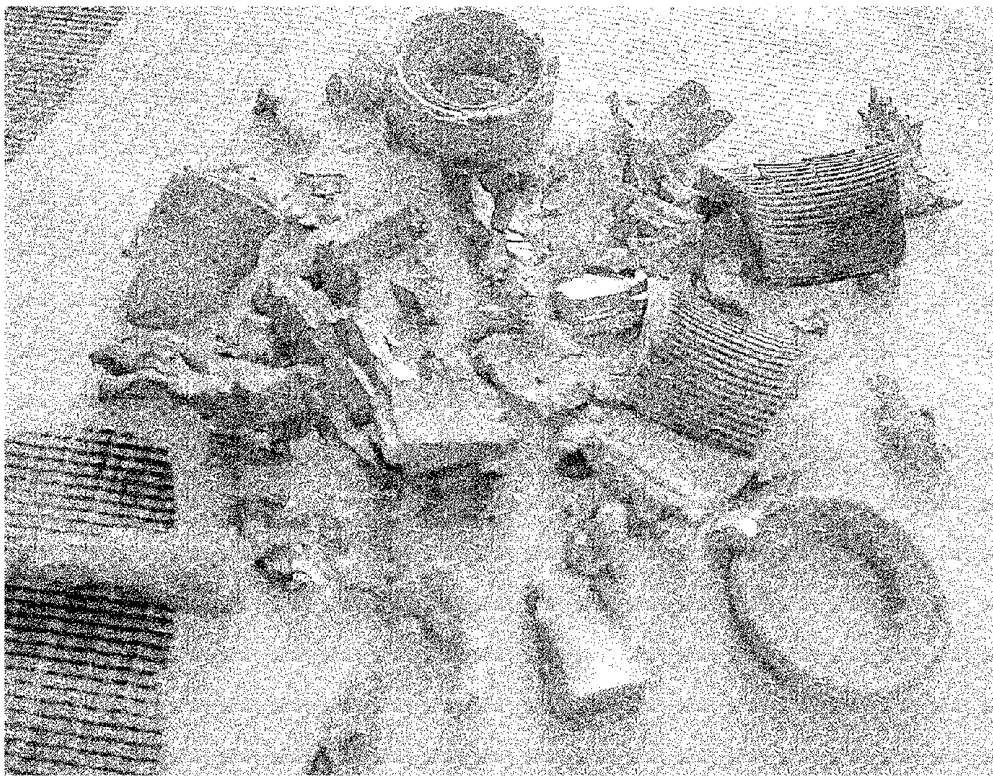
また反政府勢力の攻撃が皆
無なJVC活動地(住民居住
地域)でも、09年5月から7
月にかけて畑仕事をしていた

時、私は怒りを超え、呆れま
した。タリバンは空から攻撃
するヘリコプターなど持って
いません。最終的には国際治
安支援部隊(ISAF)の軍

事訓練であったことを認めさ
せ、JVC活動地での被害は
なくなりました。
タリバンの最前線で戦闘に

ジャララバード空港は民間
機が飛ぶことができず、軍事
基地となっています。そこに
人道支援関係者のみ搭乗する
ことができる国連機が離着陸
しています。国連機を利用す
る時には米兵に手続きを取ら
なければいけません。

私がパスポートを見せよう



JVCが支援する診療所に撃ち込まれた砲弾の破片(JCV提供)

と担当の黒人米兵士と呼ばれ
た時に、その米兵のもとで働
いているアフガン人が何か小
さなミスをしたようで、米兵
は焦点の合わない目で突然ナ
イフを突きつけました。初め
は私にナイフを向けられたと
思ったのですが、矛先は部下
に向けられていました。米兵

は恐怖の下にあるのです。
実際、アフガニスタンには
訓練を十分に受けていない、
アメリカ社会で貧困層にある
若者が多く来ているそうで
す。金属音を聞いただけでパ
ニックになり兵士が銃を乱射
したなどということも聞いた
こともあります。

アメリカでは「冬の兵士」
という運動があります。初め
は、戦場でのPTSDで社会
に戻れずその生活補償を求め
る運動でした。そのなかで一
般の人をどのようにに殺した
か、銃の利用基準がどう変わ
っていったのかなどを証言
し、自分たちの行動を反省し
ているのです。

最前線に立っているのはど
ちらも社会的な弱者なのかも
しれません。彼らも戦争の被
害者で、大きな力が彼らの人
生を翻弄しているのかもしれ
ません。

(日本国際ボランティアセ
ンター事務局長)